

ペットと飼い主の老いのこと

動物の種類によって寿命は異なりますが、犬や猫などペットとして飼われる動物の多くは人より短命です。ペットが歳をとったときのことを想定し、心構えと準備をしておくことが重要です。

ペットの高齢期への心構えと準備

- ・犬は7歳前後、猫は10歳前後から高齢期と言われています。高齢期を迎えたら、日頃からの健康チェックには今まで以上に気を配り、定期的に健康診断を受け、フード、病気、室内の危険等への対応を考えましょう。
- ・高齢になるにつれ、様々な症状が現れ介護が必要になる場合もあります。どんな症状があり、どんな介護が必要になるのか、事前に学んでおきましょう。
- ・適切な治療や介護にかかる費用を、前もって準備しておきましょう。
- ・人の介護と同様に、飼い主には精神的にも肉体的にも負担が増えますが、悩みを一人で抱えず、家族や知人、獣医師や飼い主仲間など、他の人に相談することが重要です。無理をしない介護を心がけましょう。



飼い主自身の高齢期への心構えと準備

- ・子犬や子猫を飼った場合、高齢で介護が必要になる10～15年後は飼い主も同じだけ歳をとっています。そのときの自身の状況を想像して、準備をしておくことが大切です。
- ・ケガや突然の病気など、ペットを飼えなくなるような万が一の事態にも備えておきましょう。



ペットが寿命を迎えるまで、責任をもって飼い続けることができますか？
「飼わない」「今は飼えない」と判断することも、動物への愛情です。
自治体や動物保護団体などが行っている取り組みを支援したり、
ボランティアとして参加することで、動物と関わることもできるのでは
ないでしょうか。



発行：環境省自然環境局総務課動物愛護管理室

所在地：〒100-8975 東京都千代田区霞が関 1-2-2

<http://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/>

編集・イラスト：つしまみかこ

平成27年8月発行



○お問い合わせやご相談は、お近くの都道府県、政令市、中核市等の担当窓口へ